

中台双方「武力」望まず

経済の一体化進む「兩岸三地」で関係者に聞く



台湾の新総統に二十日、民主進歩党出身の陳水扁氏が就任する。中国政府が台湾独立派と見なし、「独立は戦争を招く」と警告を与えてきた人物だ。政治的に緊張感が高まる中、経済は一体化の道をたどり、少なくとも経済界は中台双方とも「江沢民政権による武力統一」を望まない。総統就任式を前に、中国広東省、香港、台湾の「兩岸三地」を訪ね、関係者の声を聞いた。

経済の見通しに明るさ

台北

「大陸側は本当に、台湾にミサイルを撃ち込む、と思うか」。今月初めに訪ねた台北で、多くの人に尋ねられた。

陳水扁氏は北京が最も望

まなかった人物だが、「台湾独立に触れないなど、大変おとなしくなった」（広東省の台湾メーカー社長）。それを見てか、大陸側も「言動を観察する」と、以前の強硬姿勢を転換した。台湾のシリコンバレーと

いわれる新竹サイエンスパーク。集積回路（IC）設計会社の社長は「陳氏の対応に満足だ。大陸を刺激しないよう注意している。新政権に願うのは、国民党の長期支配がもたらした腐敗など内政問題の解決、行政の効率化、企業経営環境の改善だ」という。

東莞

（広東省）

「進出台湾企業に対する政策は、陳氏当選後も変わっていない」。海峡をはさんだ広東省東莞市で、張順光・副市長は強調した。

緊張続くが政策は不変

新総統に大陸を怒らせない②米国の思惑とあまりかけ離れない、の二点を求め

「中台は特殊な国と国たせず、台湾の人たちも支持しなくてはならない」という李総統の二つ持しななっていた」と分析してみせた。

香港

「やり方が下手で柔軟さ伝わらず」

「中国は台湾に対し、柔軟姿勢も示してきた。しかし、やり方が下手で、悪い話ばかり台湾に伝わっている」と、香港の外交筋は分析する。

江主席の「台湾統一にメドをつけた」という思いは、まず変わらない。それなら陳水扁政権はどうすべきか。「（得票率三九%の）弱体な権力基盤だから、大陸には低姿勢で臨み、メンツを与え、「台湾に時間を貸してほしい」と頼めばいいのではないか」と、戴国焯氏は話した。

「横ばい」が五割だった。呉榮義院長は「大陸の動きなど不確定要素はあるが、経済界の先行き見通しは悪くない」と解説した。

政治学者の戴国焯氏は

台北の中心にそびえる台湾総統府は、日本統治時代に建設された。国民党が独占してきた総統は、民主進歩党出身の陳水扁氏にかわる

鈴木写す



「世界貿易機関（WTO）に加盟すれば、大陸製品の輸入が増える。慎重姿勢を強調してきた大陸政策をどうしますか。」

WTO加盟なら貿易緩和

陳博志・次期台湾経済建設委主任

入制限の緩和が検討されるだろう。大陸投資も同様だ。ただ、一気に開放すれば安い商品が過剰に流れ込む。急激な大陸投資拡大は産業空洞化をもたらす。

大陸投資はすでに膨らんでいます。「大陸の統計では四百億を超えている。東南アジアへの投資も四百億以上に達する。この地域には、台湾メーカーのネットワークができた。ハイテク分野で台湾は技術も生産量も、米国、日本に

対顧客電信売り相場(11日)

東京三菱銀行	110.45
第一勧業銀行	100.16
三井住友銀行	51.21
外貨換銀行調べ	15.27
	51.15
	27.18
	60.19
	60.03
	69.21
	69.88

中台関係

台湾当局、福建省に集中、①台湾の本社で受注②大陸で生産の親族訪問を許可したのは一九八七年。中国側の統計によると、台湾企業の対中投資は累計約四万四千件、契約額四百四十六億。実業は沿海の広東省、江蘇

もういっぺん。しかし、緊張感は続く。「選挙で独立派を支持した台湾の企業に、大陸で稼ぐ

ことは許さない」という北京当局の脅し文句が、マスコミを通じて台湾に伝えられたからだ。